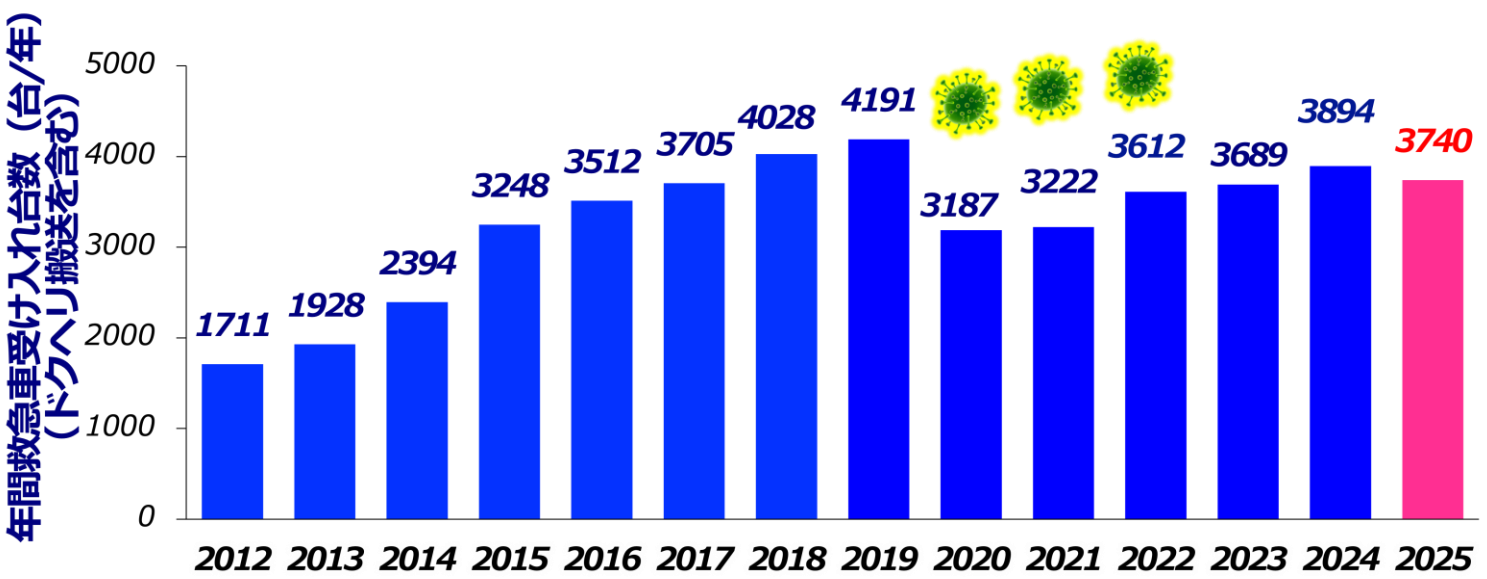
UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

筑波大学附属病院の取り組み



高度救命救急センター





新・病院救急車(株式会社都市開発様寄贈)



- 2020年、国内42施設目の**高度救命救急センター**として認可。茨城県の救急医療の最後の砦を担っています。
- 救急科専門医12名、病院救急救命士3名を中心に救急診療を展開。ICUでは集中治療専門医、診療看護師が24時間**closed ICU体制**で診療しています。
- 茨城県防災ヘリを活用した**ピックアップ型ドクターヘリ事業**に参画し、現場から早期治療を実践しています。
- 厚生労働省の救命救急センター充実段階評価で、2025年度まで**3年連続、最高のS評価を獲得**しました。
- 能登半島地震・熊本地震へのDMAT派遣など、**災害医療**にも貢献しています。

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

小児集中治療センター

PICU
UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

PICU診療を基盤に、
院内・災害・地域へ活動を拡大



日常業務　PICU運営 / 重症小児の集中治療・全身管理 / 院内の小児急変対応 / スタッフへの急変対応教育

セミクローズド運用　**5年間で活動領域を広げてきた3つの取り組み**

1

小児集中治療の質向上

症状評価の実践・研究

痛み・鎮静・せん妄・薬物離脱の体系的評価を日常診療に実装し、研究へ展開。

Pain　Sedation　Delirium　Withdrawal

2

小児災害医療体制の整備・教育

災害に強いPICU

災害時にも重症小児医療を維持できるPICUを目指し、体制整備と教育を継続。

災害対応計画　PICU体制整備　スタッフ教育

3

県内重症小児医療ネットワークの構築

地域で重症小児を支える

茨城県内の重症小児を適切な施設へ集約する体制と、医療者の連携づくりを推進。

集約化体制　茨城急性期小児医療勉強会

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院
UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

総合周産母子医療センター

2003 年 7 月　新生児集中治療室（NICU）

2004 年 4 月　周産期総合医療センター

2004 年 7 月　母体胎児集中治療室（MFICU）

2005 年 5 月　総合周産期母子医療センター

2024 年 8 月　NICU／GCUを増床

NICU 9 床 ⇒ 15 床

GCU 18 床 ⇒ 24 床







24 時間
産科医 2 名、
小児科医（新生児専任）1 名常駐

超低出生時、極低出生体重児、
先天性疾患（先天性心疾患、小児外科疾患等）の治療・管理

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

小児総合医療センター

病棟
夏祭りの様子



小児の難病、悪性腫瘍、稀少疾患、重症疾患、先天性心疾患、小児外科疾患等
を中心に診療





ファシリティドッグ
導入予定

筑波大学附属病院
UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

総合がん診療センター

８つの部門

- 院内がん登録
- 臨床治療部門
- 臨床研究部門
- がんゲノム医療部門
- 臨床教育部門
- 地域連携部門
- がん患者相談・支援部門
- がん生殖医療部門





地域がん診療連携拠点病院



筑波大学附属病院は平成20年2月8日付けで「地域がん診療連携拠点病院」に指定されました。｜地域がん診療連携拠点病院」とは全国どこでも、「質の高いがん医療」を提供することを目指して都道府県による推薦をもとに、厚生労働大臣が指定した病院で、以下のような役割を担っております。

手術や放射線、化学療法など専門的ながん医療を提供すること。
地域におけるがん診療に従事する医師等に対する研修の機会を提供すること。
相談支援センターを設置し、患者・家族の相談支援や適切な情報提供を行うこと。等
今後とも地域の医療機関との医療連携を更に強化して、より良いがん医療の推進と医療情報の発信に努力してまいります。

がん診療連携拠点病院機能強化事業



●**市民公開講座**・・・啓蒙活動として市民向けに「がん」の講演を開催しております。
●**がん医療従事者研修**・・・地域全体の医療従事者に対して質の高いがん医療等の知識に関する研修を実施しております。

- 茨城県緩和ケア研修会
- 緩和ケア研修会フォローアップ研修
- ELNEC-J　コアカリキュラム　看護師教育プログラム
- がん医療従事者　ベーシックセミナー
- がん医療従事者　アドバンスセミナー

- 茨城病院病理医の会
- 基礎研究医養成活性化プログラムサマースクール
- 基礎研究医養成活性化プログラムウィンタースクール
- 薬剤師合同セミナー
- 茨城県がんのリハビリテーション研修会

私達は「がん」にかかわる方々を一人でも多くサポートできるよう取り組んでまいります。

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

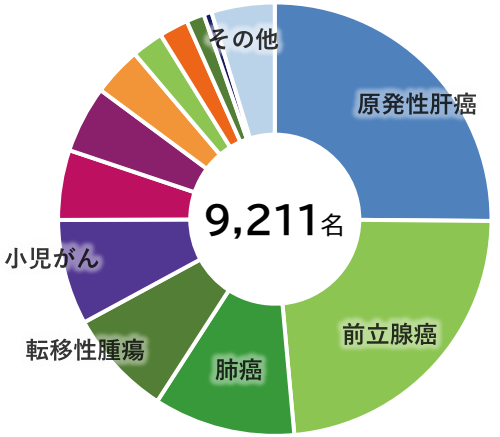
SINCE 1976 筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

陽子線治療センター：これまでの歩みと新治療棟

歴史的発展から国内最長の診療実績～2025年9月開所の新治療棟へ

筑波大学は、日本の粒子線治療をリードし、先導的な臨床研究と保険適用の拡大に貢献してきました。

累積治療実績
9,211名
（1983年～2026年8月末現在）



1983年　臨床研究の開始：
世界初の垂直ビームによる臨床研究を開始。
粒子線治療の基礎を確立。



2001年　病院併設型センターの完成：
陽子線医学利用研究センターが発足。

2008年　先進医療の適用：
陽子線治療が先進医療として厚生労働省に承認。

2016年以降　保険適用の順次拡大：
小児がん（2016年）をはじめ、
前立腺がん・肝がんなど保険適用疾患が拡大。





2025年　新陽子線治療棟の運用開始：
ウォルト・ディズニー・ジャパンからの支援を
受けてディズニーキャラクターの壁紙を整備

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

IBDセンター（炎症性腸疾患）

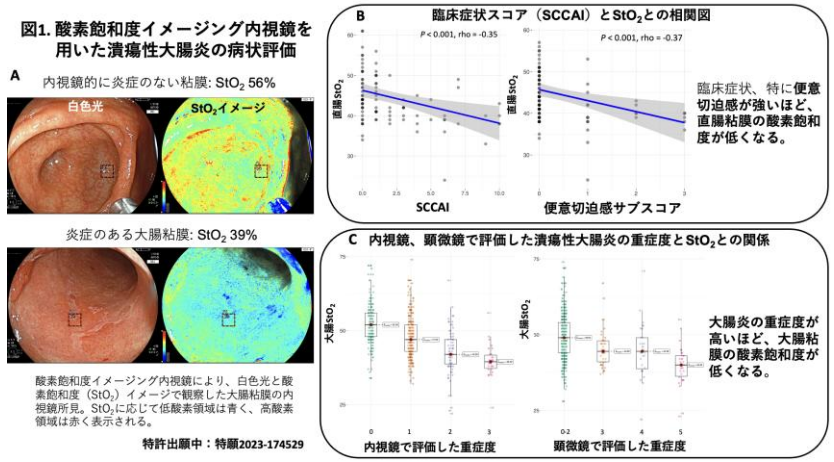
- センターの活動概要

指定難病の炎症性腸疾患（IBD）である潰瘍性大腸炎、クローン病を対象に2024年県内初のIBDセンターを開設。学会認定IBD指導施設。消化器内科、消化器外科、小児内科、光学医療診療部、放射線診断・IVR科、病理部、看護部、栄養管理室から構成される横断的な専門治療を実施。専門外来の設置、多診療科によるカンファレンスにより、診断・治療方針を決定。

- 先進的な取り組み

新規治療開発として特定臨床研究１課題終了、１課題実施中、２課題計画中。

新規検査法として特許出願中（右図）。



UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

てんかんセンター

長時間ビデオ脳波 104件

頭皮 95件 ／ 頭蓋内 9件

てんかん手術 41件

2024年度 DPC病院手術件数：**全国8位**

てんかんセンター相談 51件

お問い合わせ 24件 ／ 面談 26件 ／ 電話 1件

てんかん啓発活動

- **市民公開講座**：　小児・成人・高齢者のてんかん、こころのケア、発作時の備えについて講演を行なった
- **パープルデー**：「てんかんをもつ人を、ひとりぼっちにしない」を掲げ、正しい理解と応援の輪を広げる啓発活動を行なった

市民公開講座



パープルデー



てんかんセンターが目指すもの

専門的な診療 × 相談支援 × 地域啓発

診療：てんかん専門医の診療と長時間ビデオ脳波を活用し、治療を支える
相談：患者さん・ご家族の受診や生活上の困りごとに対応
啓発：市民公開講座やパープルデーを通じ、地域へ正しい知識を届ける

患者さんとご家族が、地域で安心して暮らせるための拠点として活動しています

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

アレルギーセンター

筑波大学附属病院では、2026年4月より、アレルギー診療体制のさらなる強化を目的として「アレルギーセンター」を開設しました。

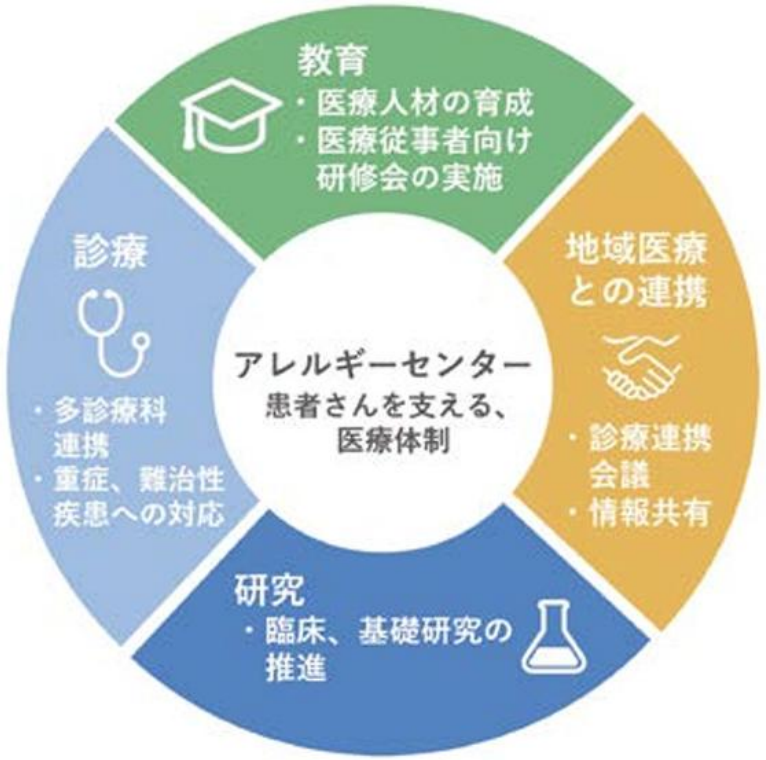
当院は、2018年4月に茨城県アレルギー疾患医療拠点病院に指定されて以来、診療連携会議や医療従事者向け研修、住民への講演会などを通じ、地域のアレルギー医療の質向上に取り組んできました。

しかし、こうした取り組みの一方で、県内では専門医や認定資格を有する医療従事者の不足、複数診療科の連携を要する重症・難治症例への対応体制、小児期から成人期への移行医療の整備などが課題となっています。

アレルギーセンターでは、これらの課題に対応するため、複数の診療科が連携し、それぞれの専門性を生かしたチーム医療により、患者さん一人ひとりの症状に応じた適切な診療を提供していきます。

また、医療人材の育成や研究、地域との連携を進め、安心して医療を受けられる環境づくりを推進していきます。

今後も、当院は地域に根ざした中核病院として、患者さん一人ひとりに寄り添いながら、アレルギー医療のさらなる充実に取り組んでまいります。



【当センターで対応する主な対象疾患】

- 気管支喘息（重症）・アスピリン喘息
  アレルギー性気管支肺真菌症 など
- 食物アレルギー
  食物蛋白誘発胃腸症
- アトピー性皮膚炎、蕁麻疹
  遺伝性血管浮腫
- アレルギー性鼻炎
  好酸球性副鼻腔炎
- 薬物アレルギー・好酸球増多症
  好酸球性多発血管肉芽腫症

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

SINCE 1976 筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

緩和ケアセンター

- 年間コンサルテーション件数1,015件と全国有数の規模
- 患者・家族のQOL向上を目標
- がんのみならず、すべての
  重い病を持つ人が対象
- 成人だけでなく小児も
- 入院だけでなく、外来患者も
- 緩和ケア病棟・地域の在宅
  医療機関との密な連携



術後疼痛管理センター

痛みを和らげ、術後の回復を支える多職種チームによる切れ目のない疼痛管理

当院の麻酔科管理症例　年間 約8,000件

多職種チームによる術後回診

麻酔科医・薬剤師・看護師がチームで回診し、
術直後から痛みと副作用を継続的に評価しています。



患者自己調節型ポンプ（PCA）　年間 約1,500例

術後痛の強い手術を受けた患者さんに、きめ細かな鎮痛を提供
鎮痛効果と副作用のバランスを整え、術後回復を支援しています。

長引く痛みへの専門的な対応

ペインクリニック専門医が亜急性期の疼痛管理に介入し、
継続的なフォローアップで痛みの慢性化予防を目指しています。

痛みを和らげ、安全・安心な術後の回復をサポートします！

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

栄養サポートセンター

【活動概要】
安心・安全・多彩な食事提供と全人的な栄養支援
毎週回診を行い、低栄養状態の改善を図る

【各職種の役割】

医師　栄養治療方針の決定と全体的なサポートを行います

薬剤師　栄養治療と薬物療法の最適化を支援します

看護師　摂食嚥下認定看護師、特定行為研修修了看護師らによる高度な知識と技術で迅速かつ専門的な栄養支援を行います

管理栄養士　ＮＳＴ専門療法士らによる専門知識と技術で栄養状態の改善と合併症予防に貢献します


病態栄養部


回診前カンファレンス

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

摂食嚥下サポートセンター

センター活動概要

摂食嚥下障害患者をサポートする多職種チーム

- 週に1回のカンファレンスで多角的な視点で嚥下障害を診断
- 食事形態の検討・リハビリテーションプラン・ゴール設定をする
- 安全に食事を提供するための医療体制の強化に向けた取り組み

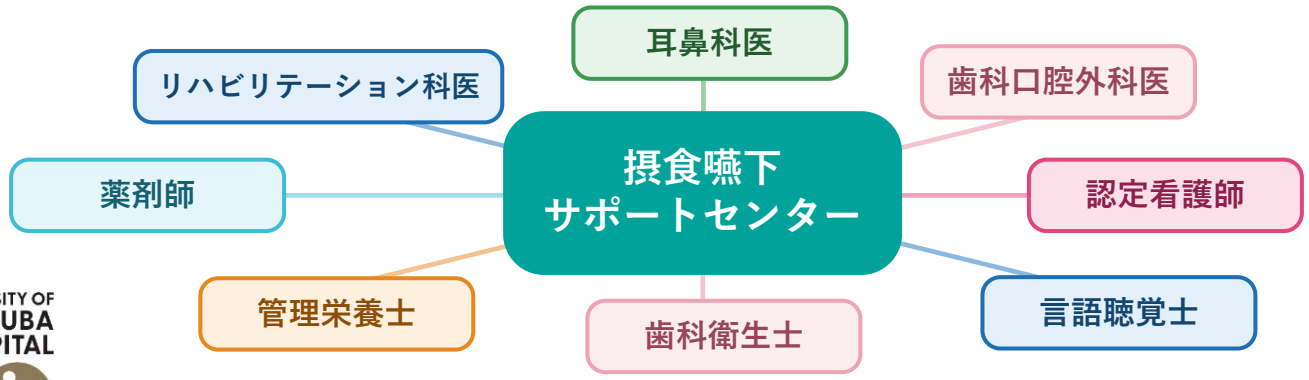


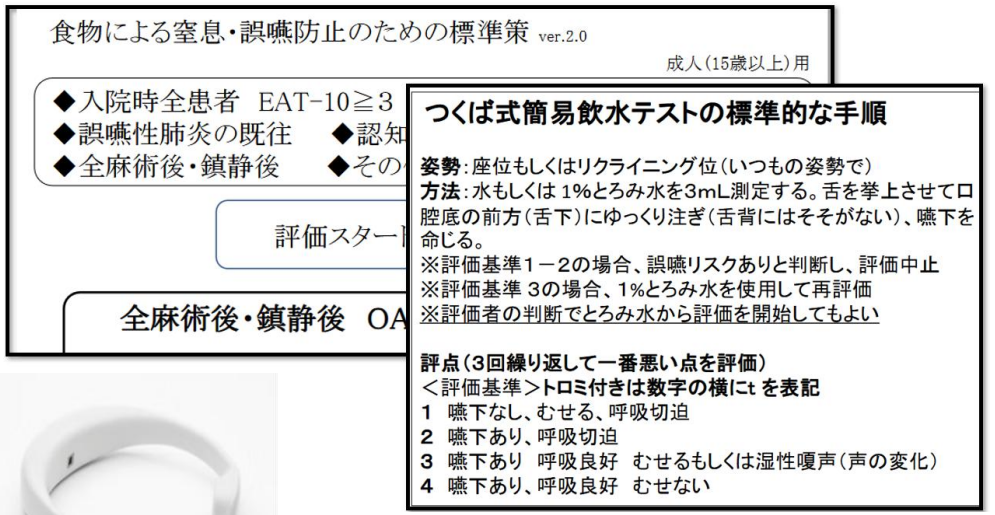
摂食嚥下サポートチーム
（Swallowing Support Team: SST）

先進的な取り組み

AIによる誤嚥リスク判定

- 本学開発の頸部装着型電子聴診器を用いた臨床実証




食物による窒息・誤嚥防止のための標準策 ver.2.0
成人（15歳以上）用
◆入院時全患者　EAT-10≧3
◆誤嚥性肺炎の既往　◆認知
◆全麻術後・鎮静後　◆その
評価スター
全麻術後・鎮静後　OA

つくば式簡易飲水テストの標準的な手順

姿勢：座位もしくはリクライニング位（いつもの姿勢で）
方法：水もしくは1%とろみ水を3mL測定する。舌を挙上させて口腔底の前方（舌下）にゆっくり注ぎ（舌背にはそそがない）、嚥下を命じる。
※評価基準1－2の場合、誤嚥リスクありと判断し、評価中止
※評価基準 3の場合、1%とろみ水を使用して再評価
※評価者の判断でとろみ水から評価を開始してもよい

評点（3回繰り返して一番悪い点を評価）
＜評価基準＞トロミ付きは数字の横にt を表記
1　嚥下なし、むせる、呼吸切迫
2　嚥下あり、呼吸切迫
3　嚥下あり　呼吸良好　むせるもしくは湿性嗄声（声の変化）
4　嚥下あり、呼吸良好　むせない

頸部装着型電子聴診器: GOKURI™

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

医療連携患者相談センター

事務11名

- 医療機関からのご紹介について、領域や緊急度を踏まえて当院診療科の**予約枠を調整**
- 他院と当院診療科をつなぐ、**診療情報提供・受入れ**に係る業務
- サマリやADLなど、転院がスムーズに進むための情報整備を行う**転院調整**

看護師25名

- 意思決定支援を大切にし、入院前から治療に向かう患者に寄り添いサポートをしていく**入院時支援看護師**
- 退院後の生活をその人らしく過ごせるように調整を行う**病棟専任看護師と退院調整看護師**

社会福祉士11名

- 複雑な課題を有する患者を対象とした退院支援にとどまらない**多様なソーシャルワークニーズを支援**
  - 身寄りのない単身高齢者の権利擁護、意思決定
  - がん、難病、精神疾患等慢性疾患患者の就労
  - 難民、技能実習生、オーバーステイ外国人患者等の受療　など

筑波大学では、各病棟の医師・看護師とセンターが連携し、
「つくば入退院支援・調整プログラム」を実施しています

入院前から退院後まで、“医療”と“くらし”を切れ目なくつなぎます

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

認知症疾患医療センター

・認知症疾患医療センターとは

筑波大学附属病院では、平成25年4月から茨城県の指定を受け、基幹型認知症疾患医療センターを開設しました。本センターは、県や県内各医療圏に設置されている12の地域型認知症疾患センターとの協力関係の上で、認知症に関わる医療と介護の垣根を乗り越え、地域における認知症疾患の保健医療水準の向上を図っています。

・認知症疾患医療センターの業務

専門医療相談　　**早期診断・鑑別診断**
関係機関との連携　　**保健医療水準の向上**

・認知症疾患医療センターの最近の取り組み

2023年から開始となった抗アミロイドβ抗体薬治療の取り扱いを当院でも開始しました。茨城県内で実施が可能な初回投与実施医療機関のひとつとして、積極的に患者の受け入れを行っています。また、当診療の普及を図るうえで有用な説明用のリーフレットの準備など、治療の普及に向けた情報発信もあわせて行っています。

茨城県内に13か所存在する認知症疾患センターの内、筑波大学附属病院は基幹型として地域の認知症医療に貢献しています



UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

SINCE 1976 筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

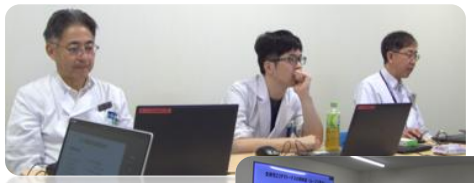
難病診療連携拠点病院
筑波大学附属病院　難病医療センター

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL



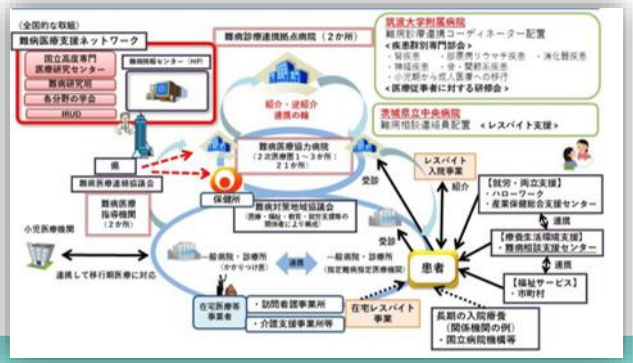
平成30年度に茨城県から指定。
難病医療情報のネットワーク化を進め、早期に正しい診断をし、
県内外の医療機関と連携強化を図り、診断・治療の支援を行う





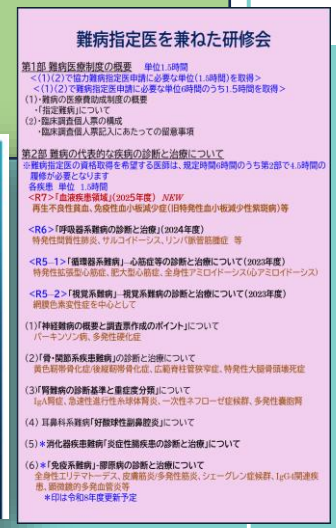
会議

- ◆ 難病診療体制連絡会議
- ◆ 疾患群別専門部会　6 部会
  - ・神経難病専門部会
  - ・消化器疾患専門部会
  - ・膠原病・リウマチ疾患専門部会
  - ・小児期から成人期医療への移行に関する専門部会
  - ・腎疾患専門部会
  - ・骨・関節系疾患専門部会
- ◆ 難病医療センター運営会議
- ◆ IRUD診断委員会



研修

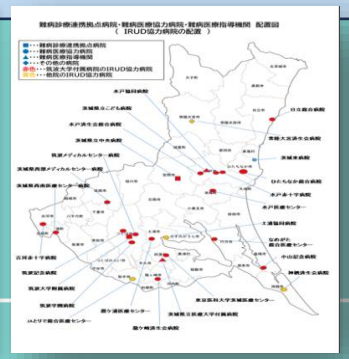
- ◆ 難病医療等従事者等向け研修会
  - ※ 診断・治療等の最新情報提供
  - オンライン＆オンデマンド配信
- ◆ 指定医の研修を兼ねた医療従事者研修会
  - ※ 指定医・協力医の申請に必要な研修単位の取得ができる。
  - ・医師以外の受講も可能
  - 通年　オンデマンド配信



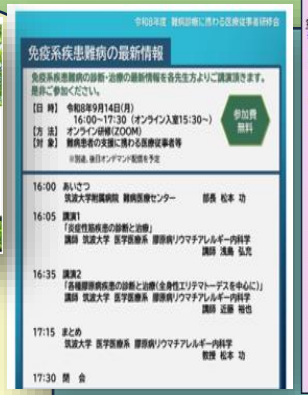
相談・情報提供等

- ◆ 相談事業
  - ・医療機関：IRUDに関すること
  - ・患者・家族：病気、IRUDに関すること
- ◆ 情報提供
  - ・難病に関する統計資料の提供（会議及びHP掲載）
  - ・難病診療連携紹介医療機関リストの作成と配付
  - ・医療従事者向け「難病患者が利用できる制度とサービスの作成・HP掲載
  - ・「難病指定医の申請について」のパンフレット作成・配付





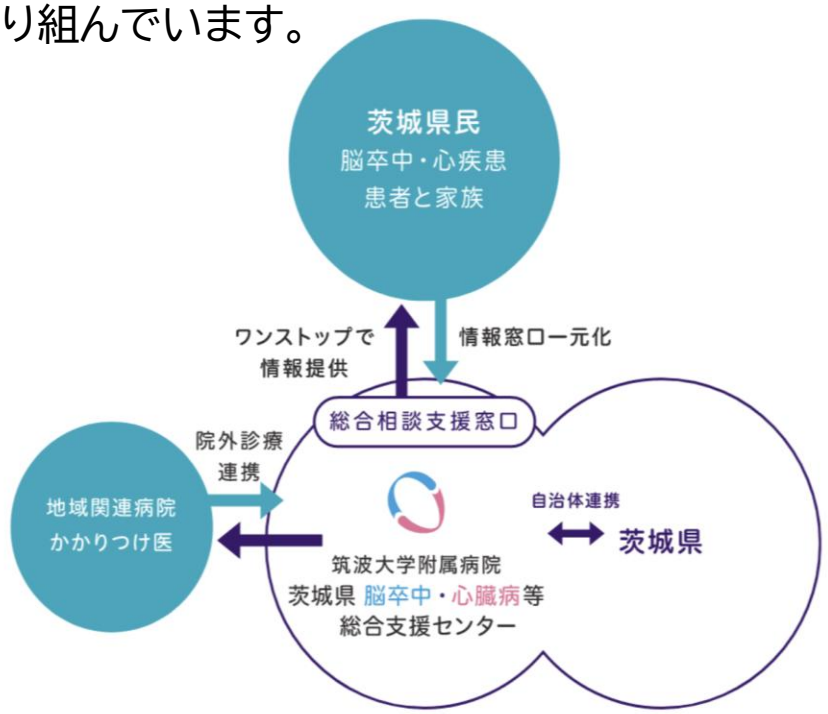




茨城県 脳卒中・心臓病等総合支援センター

地域全体で健康寿命の延伸に取り組む
（2022年7月設立）

- 茨城県の脳卒中・心臓病に関するワンストップ相談センターとして、患者・家族・医療従事者をつなぐ情報のハブ機能を担っています。
- 県内の医療機関や行政、関係団体と連携し、相談支援や情報発信、研修会を通じて、地域医療の充実と県民の健康寿命延伸に取り組んでいます。



循環器病対策を効率的に普及促進する
ネットワークの中心窓口になります

活動実績の一部







UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

精神医療・自殺対策連携センター

令和5年4月 設置

精神科医療や自殺企図者に対する支援体制を整備し、精神科医療・自殺対策の支援及び向上を図る

院内　救急受診から退院後まで、切れ目なく支える

1 救急受診時の評価
救急受診した自殺企図者のリスクを評価し、診療方針を共有

2 精神科の全例介入
当院を受診した自殺企図者の全例に精神科が介入

3 退院支援
身体加療後に社会資源へ円滑につなぎ、入院期間を短縮

4 再企図の防止
救急患者精神科継続支援により退院後も継続して支援

地域　県全域の支援ネットワークと人材育成

医療機関との連携
地域医療機関のニーズに合わせた連携強化。精神科への入退院のケースワークを実施

関係機関との連携
茨城県・つくば市等の自殺対策事業を支援。保健・医療・福祉・消防と自殺未遂者支援連携協議会を開催

人材育成
身体・精神の両方の危機に対応できる人材を育成。警察官・かかりつけ医・産業医・医療従事者等への研修を実施

自殺予防多職種連携チーム

- 精神科医師
- 精神保健福祉士
- 社会福祉士
- 看護師
- 臨床心理士

主な実績（令和5年度～）

385名	自殺企図で受診した患者の全例に精神科が介入
56名	救急患者精神科継続支援を実施
22機関	自殺未遂者支援連携協議会に参加（令和7年度）
4年連続	自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業に採択（厚生労働省）

※令和8年8月末時点

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

茨城県災害・地域精神医学研究センター

活動と先進的な取り組み

- 災害派遣精神医療チーム（DPAT）の茨城県での立ち上げ、整備、隊員育成、派遣（熊本地震（2026年,2016年），ダイヤモンドプリンセス号、常総水害等）
- 災害精神保健医療福祉領域の底上げ・教育
- 大学、保健所、精神保健福祉センター、消防、警察、ボランティア組織への講演・教育
- 海外の災害精神医学の大学や組織との連携
- 世界保健機関や海外の保健省庁との連携
- 本の出版（災害時こころのケア実践ガイド、災害支援者支援、災害精神医学入門等）
- 日本精神神経学会、日本トラウマティックストレス学会・日本総合病院精神学会、日本災害医学会などの災害関連学会での災害精神委員会要職と企画
- 支援者支援学会の創設（初期メンバー）
- 災害精神医学の研究、災害支援者支援の研究







UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

茨城県感染症対策支援センター

2024.4.1に茨城県と共同で、茨城県内における感染症対策・感染症診療に関する支援・助言をするための組織として設立

センターの活動概要（2025年度）

- **感染対策の助言・現地指導支援**（2025年度：107件）
  つくば医療圏：7件、土浦医療圏：12件、古河医療圏：3件、
  潮来医療圏：6件、日立医療圏：20件、中央医療圏：9件、
  水戸医療圏：7件　等
- **感染症に関する研修会・連絡会企画・開催支援**
  医療機関向け：延べ926名参加
  福祉施設向け：延べ654名参加
- **茨城県感染症専門医師連絡研修会開催**
  年10回開催：各大学医局と連携し人材育成
- **茨城県全域からの感染症患者受け入れ・行政対応**
  重症患者を含めた医療機関からの受け入れ

	実施日	研修内容	講師
医療機関向け	令和７年５月13日 **386名参加**	麻疹対策について ～麻疹の予防は今すぐに！一人発生したらすぐ対応！	神奈川県衛生研究所　多屋 馨子　先生
医療機関向け	令和７年９月10日 **203名参加**	ワクチン最新情報2025、世代別のワクチン戦略	茨城県立こども病院 名誉院長/ 茨城県予防接種センター長　須磨﨑 亮　先生
医療機関向け	令和８年１月14日 **179名参加**	抗微生物薬適正使用の手引き　第四版について	東京科学大学大学院医歯学総合研究科 統合臨床感染症学分野教授　具 芳明　先生
医療機関向け	令和８年２月12日 **158名参加**	（歯科医師向け） 抗微生物薬適正使用の手引き　第四版 （歯科編）について	東京科学大学大学院医歯薬総合研究科 統合臨床感染症学分野　田頭 保彰　先生 日本歯科大学附属病院口腔外科教授　松野 智宣　先生
福祉施設向け	令和７年5月20日 **253名参加**	標準予防策、経路別予防策及び具体事例、 施設内でのインフルエンザの集団発生予防	獨協医科大学 地域共生協創センター 感染管理認定教育課程主任教員　仙田 順子　先生 筑波大学 医学医療系 教授 筑波大学附属病院 感染制御部部長　鈴木 広道　先生
福祉施設向け	令和７年11月18日 **223名参加**	レジオネラ感染症について、 施設でのレジオネラ対策について	日立総合病院救急集中治療科・感染症科 主任医長 救命救急センター長　橋本 英樹　先生 茨城県保健医療部生活衛生課　環境衛生グループ
福祉施設向け	令和８年２月２日 **178名参加**	疥癬の診断と治療について、 疥癬の感染対策について	総合病院水戸協同病院皮膚科部長　田口 詩路麻　先生 古河赤十字病院　感染管理認定看護師　小林 裕紀子　先生

※そのほか、県内教育機関を対象に、麻しん対策についての研修会を開催（５月）　※参加者：**495名**

先進的な取り組み

- **海外渡航後感染症・法定感染症診療**
  病原体検査や薬剤耐性検査、熱帯病の検査・治療薬を整備
  北関東で唯一の黄熱ワクチン接種を支援



UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

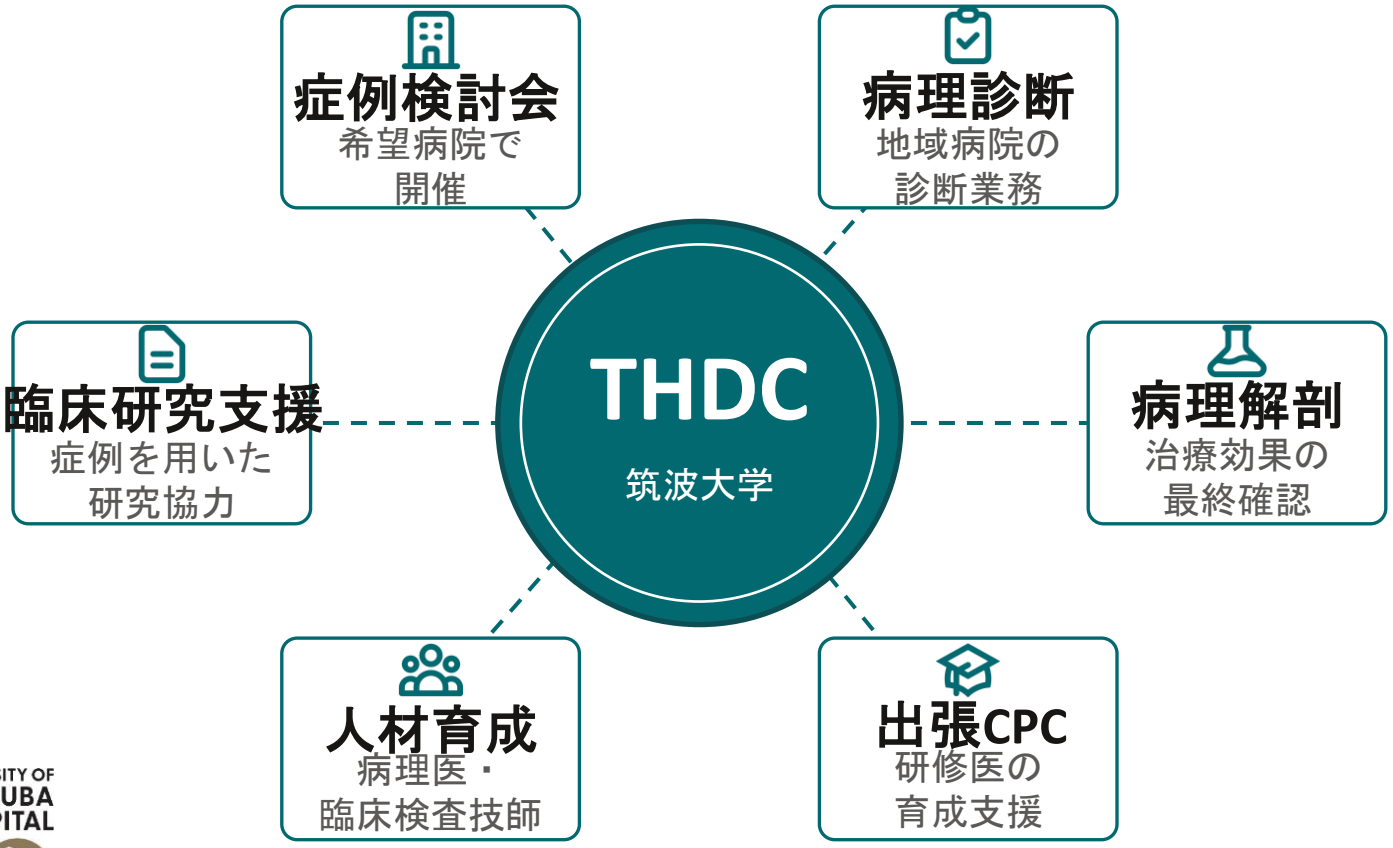
筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

THDC つくばヒト組織診断センター

筑波大学 医学医療系 診断病理学 ／ 2007年開設

茨城の病理診断を、大学が束ねる。

大学集約型 病理診断センターとして、**各臓器に精通した病理専門医**が地域中核病院の診断を担う。



MISSION

茨城県における病理組織診断の精度向上

17施設	約8,000件	20人
連携病院	年間診断件数	病理専門医チーム

人口あたり病理医数（茨城県／2023年10月）

全国ワースト1位

– だからこそ、大学が集約して支える。

SUPERVISION

茨城の部長クラスが集結。

それぞれの専門分野で診断にあたる

呼吸器　消化器　乳腺　婦人科　泌尿器　血液

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

対象地域：茨城県内および近県の病院／筑波大学附属病院 臨床研修教育病院・教育協力病院・地域中核病院・研修指定病院

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

BNCT研究センター







- **センターの活動概要**
- 茨城県東海村を拠点に、ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）の臨床研究と技術開発を推進。
- 医学・物理・工学の連携により、難治性がんに対する新たな治療の確立を目指す。
- **先進的な取り組み**
- 独自開発の高出力「BNCT用加速器中性子照射装置 iBNCT001」を用い、初発膠芽腫を対象とする第Ⅰ相医師主導治験を2024年1月に開始。
- 標準治療とBNCTを組み合わせた安全性評価を進め、治療計画・線量評価技術の高度化、装置の実用化と国際標準化に取り組む。

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

つくばヒト組織バイオバンクセンター

診療の過程で得られる生体試料（検査を終えて廃棄するもの）を収集・保存し，研究・開発に利用できる貴重な資源として管理しています．全国の研究者に生体試料を提供することで，臨床研究を支え，新たな治療法の開発につながる研究基盤を構築しています．

つくば
ヒト組織
バイオバンクセンター
Tsukuba Human Tissue Biobank Center





生体試料の収集・保存

＜先進的な取り組み＞

1. バイオバンク連携
   - 日本全国14機関のバイオバンクと連携
   - 生体試料を横断的に検索できるネットワークを構築

2. オンデマンド提供
   - 研究者のニーズに応じた生体試料を収集
   - 必要な形で提供するオンデマンド型提供の実施

3. 社会実装
   - 企業の研究開発を支援
   - 産業利用へ展開

「生体試料を未来の医療へ」

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

つくば予防医学研究センター

つくば予防医学研究センター
人間ドックマスコットキャラクター
Tドックくん

筑波大学附属病院の「総合力」を活かした人間ドックです

豊富な知識と経験を有するスタッフによる精度の高い検査を提供

診断結果は、各専門医によるダブルチェック!

豊富な知識と経験を有する各科の専門医と専門の検査技師が検査にあたります。また、検査結果は各専門医がダブルチェックを実施し、精度の高い検査を提供します。

本院のがん治療との密接な連携

体に負担が少ない最先端のがん治療も提供!

万が一がんなどの重い病気が見つかった場合には、大学病院と連携し、速やかに結果を共有し、次の治療ステップに進むことが可能です。

・小児がんサバイバードック
・がんプレシジョンドック



検査・予防・治療をシームレスに

健康増進サポート施設との連携による健康サポート

食事・運動など生活習慣の改善方法を提案!

生活習慣病など気になる方やご希望に応じて運動習慣の改善や生活習慣病予防のため最適な改善方法を提案します。

予防医学研究の推進による社会貢献

新しい治療法の開発を目指して!

検査で使用した検体は、受診者の皆さんの同意を得た上で研究用に保存されます。これらは様々な研究・教育機関で医薬品の開発、病気の原因を見つけるための研究等に利用されます。

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

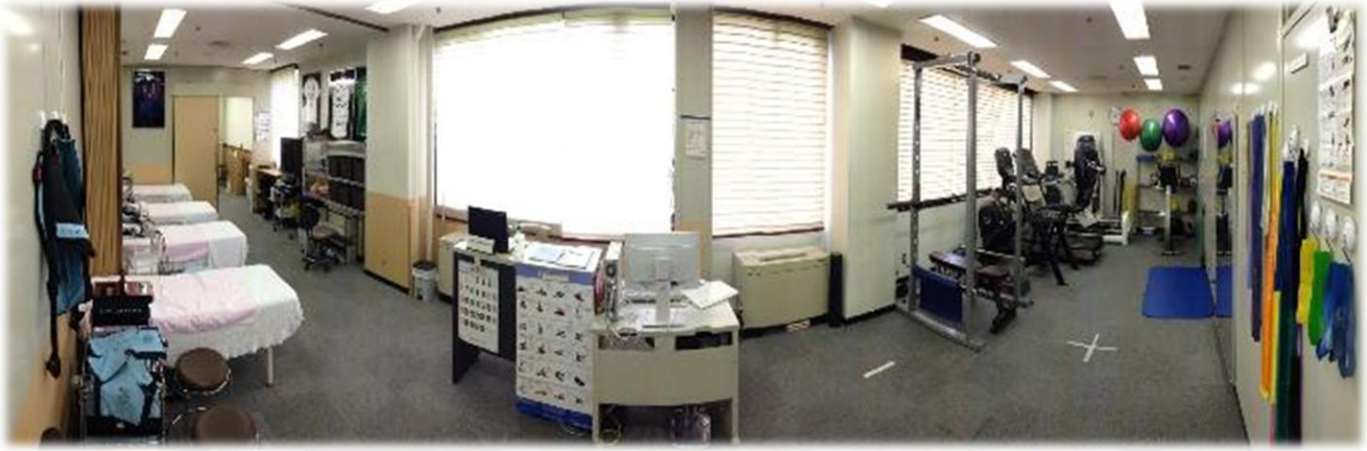
TGD Tsukuba Genetics & Genome Dock
つくば ヒト組織 バイオバンクセンター Tsukuba Human Tissue Biobank Center
つくばハピネスライフ研究
SUIMIN Sleep is the Ultimate Intelligent Mechanism In Nature

SINCE 1976 筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

つくばスポーツ医学健康科学センター（SMITセンター）

2015.10 開設

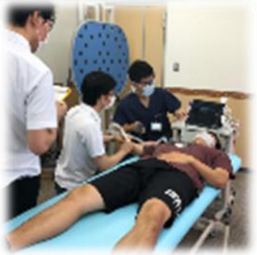
- スポーツ外傷・障害の**先進的治療**
- 予防から早期復帰までを支える
  一気通貫型アスレティックリハビリテーション
- **トップアスリート**から**子ども・高齢者**まで、
  幅広い世代の運動機能向上・健康増進











- 附属病院・医学医療系と体育系との
  スポーツ医学連携（他国立大学にはない特色）



UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

総合臨床教育センター

全職員の
キャリア支援に対応！

現在の取り組み
- 入職オリエンテーション管理（全職種）
- 院内講習管理（全職種）
- 看護特定行為研修管理
- 医師臨床研修・後期研修管理
- 各種面談対応
- 臨床研修採用試験運営
- 復職支援枠
- レジデント労務管理
- 医学生見学対応
- 外国人修練医師対応
- 各種講習開催　etc.…



2004
総合臨床教育センターへ改組
- 医師臨床研修必修化に対応
- 全職種へ対応

1988
卒後臨床研修部として発足
専任教員を置いた組織としては**国立大初**

医師の卒後研修制度として全国に先駆けた独自制度

1980-
筑波大学附属病院レジデント制度発足

2004
全国で臨床研修必修化

2018
全国で新専門医制度開始

筑波の制度が全国標準に！

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

物流センター

- 患者さん本位の、安全で適切な医療を提供するために必要な器材を、計画的に供給するサービス部門です。具体的には、医療用器材の再生滅菌、消耗性医療材料の供給に関する物流管理及び医療機器の整備を行っています。
- 管理課物流管理担当と共同して業務を行う形態です。病院全体で一元的な管理とサービスを提供しています。
- 2013年4月より、TNP（つくばネクストパートナーズ）と共同して業務を行い、医療サービスの向上・適正価格での医療材料購入を図っています。

部長	佐藤 幸夫
副部長	山本 純偉
副部長 副看護部長	寺田 えり子



筑波大学附属病院開院50周年

UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL 50th Anniversary

SINCE 1976 筑波大学附属病院 UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL